

# みんなの町議会



## 目次

- 6月定例会の経過 ..... 2~3
- 常任委員会の焦点 ..... 4~5
- 一般質問に4名登壇 ..... 6~9
- 請願・陳情・  
意見書送付・議員研修報告 ..... 10
- あれ なんと なった べが！ ..... 11
- 励ましの人・がんばってます ..... 12

No.119

2014年7月1日

山王社奉納相撲大会

# し尿処理施設 調査設計委託料 修正案を可決

## 6月 定例会

### 議会の経過

6月定例会は6月9日から13日までの5日間の日程で開かれた。

一般質問には4名が登壇し、行政改革・少子高齢化対策・地域包括ケアシステムの構築・教育委員会制度改革についてなど町政の諸問題について町当局に質問した。

提出議案は、平成26年度一般会計補正予算案・五城目町立学校条例の一部改正案、専決処分承認案など13件。

行政報告で渡邊町長は、「湖東厚生病院の運営補助金・消防署建設工事請負費の増額・し尿処理施設建設の調査設計費についてなど、平成25年度各会計の決算見込み・平成26年度補正予算について」述べた。

各常任委員会の審査を行い、最終日は各常任委員長報告の後、委員会提出による一般会計補正予算案の修正案を可決、修正議決した部分を除く補正予算案は、原案通り可決した。

陳情1件を採択、農業委員会委員を推薦、議会改革調査特別委員会を設置し閉会した。



平成26年度

### 予算補正の主なもの

補正予算は、7,111万1千円を追加し累計総額60億4,911万1千円とするもの。主なものは、大川小学校閉校記念事業補助金・生産力アップ支援事業・消防庁舎建設費の追加・湖東厚生病院運営費補助などが主なもの。

### 議会改革調査 特別委員会

議長発議により、議長を除く議員全員による委員会が再度発足した。これまで、議会傍聴人取締り規則改正・議会映像配信システム導入・会議規則の一部改正をした。

- ・議員定数について
  - ・議会報告会の実施
  - ・反問権の付与
  - ・タブレットの導入
  - ・予算特別委員会の設置
  - ・議会基本条例の制定
  - ・議会として町民相談室の設置
  - ・議会ホームページ開設
  - ・フェイスブック活用
  - ・出前議会開催
- など検討し議会の改革を推し進める。

委員長 石川 交三  
副委員長 館岡 隆

教育民生常任委員会では、「し尿処理に関し広域化処理出来ないか」「近隣町村に呼びかける努力が足りない」とし、し尿処理施設調査設計委託料を修正した。

本会議では、委員長報告で教育民生常任委員会の修正案が報告され、質疑・討論・議決された。

修正されたのは、し尿処理施設建設事業 調査設計委託料496万7千円を1千円に修正するものである。  
 (存置・予算の名目を残すために1千円を残し修正)

### 修正案に反対の討論

石川 交三議員

し尿処理建設に関し、当局の説明不足、議案提出に関しての不手際は認めないが、八郎潟町・井川町衛生処理施設組合との合併は町長の説明で出来ないとの結論を得ている。し尿処理場建設は急務であり、調査をしなければ処理方法も決まらず建設が遅れて町民に不利益が生ずるので、修正案に反対である。

### 修正案に賛成の討論

千田 峯夫議員

八郎潟町・井川町衛生処理施設組合と

の合併に対し、当局の努力が足りなかった。今後も努力すべきである。財政が厳しいので予算軽減を図ることを考えると合併がベストである。当局はもっと合併に対し努力すべきである。よって修正案に賛成である。

### 修正案に反対の討論

佐藤 成孝議員

し尿処理場建設は急務である。調査をしなければ先に進めない。建設するとすれば立派なものを建設すべきである。建設を早期に進めるために修正案に反対である。

### 修正案に賛成の討論

澤田石亀雄議員

議案48号についてはこれまで長時間討議された問題である。教育民生委員会では慎重に審議したので、修正案に賛成である。



修理費がかさむし尿処理施設

討論終結後、直ちに起立による採決となった。

### ◆修正案に賛成の議員

- 石井 光雅・佐藤 慶彦
- 畑澤 洋子・伊藤 正春
- 荒川 達雄・佐藤 重信
- 館岡 隆・千田 峯夫
- 工藤 卓美・澤田石亀雄

### ◆修正案に反対の議員

- 佐々木仁茂・荒川 正己
- 石川 交三・佐藤 成孝

### ◆議場にいなかった議員

- 齋藤 晋

賛成多数で修正案を可決した。

その後、修正部分を除く議案第48号一般会計補正予算に対し討論をした。

### 修正案を除く議案第48号一般会計補正予算に対する反対の討論

澤田石亀雄議員

消防署建設は早期に建設するため、長時間議論を重ねてきた。今回出された補正予算は約1億円もオーバーするものである。議会は当局の追認機関ではない。少ない予算で最良のものを建設するべきである。よって、原案に対し反対である。

## 議会推薦 農業委員

伊藤 恵美 (47歳)  
大川



椎名 志保 (49歳)  
田町



(齋藤 晋)

# し尿処理施設調査費を減額修正

## 教育民生 常任委員会



老朽化したクリーンセンター

し尿処理施設の基本計画はすでに策定済みであり、今回の調査費は希釈放流方式の種類、建設事業費の見積り徴集など詳しい資料の収集である。**委員** し尿処理について広域で処理出来ないか。広域に向けて近隣町村に呼びかけてほしい。議会と行政が一緒になって、広域を含めた検討をしたらどうか。

**当局** 広域処理については平成23年に、すでに湖水苑の縮小工事を進めている状況下で無理であるということで結論がでている。稼動して3年目となった現時点で改めて連携についてお願いするのは厳しいものがある。

# 総務 常任委員会

# 地域おこし協力隊3名着任 活躍に期待



拠点となる地域活性化センター

3名の地域おこし協力隊が着任した。地域活性化支援センター（旧馬場目小学校）を活動拠点として、六次産業化や起業支援、移住定住促進などの活動に取り組む。任期は最大で3年。7月末までをこれからの支援活動を行うための準備期間としている。

地域おこし協力隊は2009年に総務省により制度化され、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において地域の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする制度である。

## 町フェイスブックを開始

まちづくり課では5月30日よりフェイスブックサービスを利用し公開をしている。フェイスブックページについては、ホームページ同様、会員登録なしで閲覧が可能。速報性に劣る広報ごじようめやホームページを補完する形であり、内容としては、町内観光地の紹介、イベントや行事の紹介と告知などである。

開始直後で情報量が少ないものの広報公聴に関する情報発信ツールとして有効活用を期待したい。

委員からは「災害など非常時においても活用できるような」などの意見が出た。



町フェイスブック

(佐藤 慶彦)

**委員** あくまでも単独で建設するということか。

**当局** クリーンセンターは老朽化しており、今後いつまで稼働できるか不安であり、早急に建設を進める必要がある。

**委員** もう一度3町の広域について話し合いの場を持つべきだ。3町で合意できれば施設の改修費は五城目で負担しても10～15年はもつ。その後改めて3町で新しい施設を建設したほうがよい。単独で、し尿処理施設建設はいかなものか。よってこれに係る調査設計等委託料は減額修正するべきである。

し尿処理施設建設事業に係る補正予算は減額修正とした。

## 温水プール改修工事着工

屋内温水プールの改修工事が5月12日に入札が実施され、秋田市雄和の伊藤工業株式会社が出札額2億9,916万円で落札し仮契約を結んだ。工事の竣工は平成27年1月30日である。この工事は議会の議決に付すべき契約（予定価格50,

000千円以上）であり今定例会に議案を上程された。

## 消防庁舎本体工事7月入札

消防庁舎本体工事は26年・27年2ヶ年継続工事として、事業費5億04,545千円で7月発注予定。工期は27年6月末まで。また土地造成工事については、第1期工事は契約額33,588千円で発注済みであり、工期は26年9月26日まで。第2期工事は11月に発注して、年度内完成を見込んでいる。今後、下水道接続工事、上水道接続工事を随時発注の予定である。



土地造成工事中の消防庁舎建設地

(石井 光雅)

## 委員会の焦点

# 県道真坂五城目線神明前の急カーブが解消される

県道真坂五城目線神明前の急カーブは、以前から冬期間の通行や、通学路としても歩道がカーブの途中で途切れて狭いなど、危険な状況が指摘されていた。

**委員** 道路改修に係る今回の補正額の内容は。

**当局** 土地購入費、移転補償費などが主なもの。県では改修工事に着手するため地権者と用地交渉をしたが、台帳面積と現況面積が極端に違い同意が得られず、一旦、町で全筆買収してから県道部分は県に買収してもらうことになった。残地については、地元町内会のゴミ置き場やベンチを置いての休息場を考えている。周辺住民にとっても待ち望んでいた道路改良工事であり、一日も早い完成が待たれる。



神明前の危険な急カーブ

## 日本型直接支払い交付金事業へ4集落新加入

農地・水向上対策に変わり、新たに多面的機能支払い交付金事業がスタートした。

**委員** 新事業の多面的機能支払い交付金事業へ4集落が新しく参加だが、どこの集落で全部で何集落になるのか。

**当局** 新規に平ノ下、落合、館越、樋口の4集落が加入し、既存の18集落に加えて22集落である。

新制度が地域に定着し、農村の活性化が図られることに期待したい。

## 延期の湯ノ又橋改修工事に着手

25年度に予定されていた湯ノ又橋改修工事は、地元住民の理解が得られず延期されていたが、架け替え工法の変更による着工が決まった。

橋梁添架の水道管を移設しなければ架け替え工事に着手できないため、それに伴う水道管移設の予算が本定例会で計上され、10月中で移設が終わる。

(佐々木仁茂)

# 一般質問

## 愛郷教育の推進を

### 教育長 今年も職場体験を5日間に増やす



佐藤 慶彦  
(会派に所属しない議員)

**佐藤** 町の担い手育成のためにも愛郷教育・ふるさと教育の推進が必要である。

**教育長** ふるさと教育の一環として中学校で「職場体験学習」を行っており町内36事業所が受け入れている。1年生は1日、2年生はこれまでの3日間から今年は5日間職場体験をし、指導を受けながら、ふるさとに愛着と誇りを持ち、地域社会を支える人材に育つよう取り組む。

**佐藤** 町における教育専門監の配置はどうなっているか。

**教育長** 教科指導に卓越した力を有し県教育委員会に教育専門監として認定された教諭は五城目小学校を本務校として1名配置されており、井川・八郎瀧小学校を兼任し3校で講師を務めている。



昨年の職場体験発表会

### 公共施設概要調書の活用を

**佐藤** 建物ごとの必要性について再検討したか。

**町長** 今年度策定する第5次(平成27～31年度)五城目町行政改革推進プログラムの基礎資料とし、再検討に入る。

**佐藤** 経過年数に基づく更新時期の想定と経費の試算は。

**町長** 222件の建物について総合管理計画の基礎資料として試算する。

総務省の提供する更新費資産ソフトを活用し、体制が整い次第取り組みたい。

### 町の課題は山積、行政改革の推進を

**佐藤** 全国を見回すと、町をはじめ県内の行政改革が遅れていると感じる。周辺市町村や県内を手本とせず、先んじて行政改革をすべきである。町の行政改革の課題は何か。

**町長** 地方分権化による新たな行政ニーズへの対応や町独自の課題解決のための取り組みが必要と考えられ、成果と目標の管理を行う行政運営が課題である。

また、職員の年齢構成の偏りの解消や職場の能率向上のためペーパーレス化などが他に課題としてあげられる。

**佐藤** 職員提案のその後は。制度の改善はされたか。

**町長** まちづくりに生かすための制度構築まで至っていない。

**佐藤** 行政改革推進や各種課題解決のためにも意識の高い職員の育成が急務であり、県内の研修より、専門性の高い市町村アカデミーなどでの研修を受講させるべきである。

**町長** 再度、職員に研修メニューを周知し、より多くの職員を受講させたい。



行政改革が求められている

**佐藤** 職員の人事評価はどのように行われているか。

**町長** 年1回4月から10月までの勤務内容について、各課室長による評価と副町長による総合的な評価により勤務成績を決定している。

**佐藤** 十分であるか。

**町長** 中長期的視点を踏まえた能力評価には必ずしも十分でないことは認識している。しかし、国、県と違い少人数のため、個々の能力を把握できており十分機能していると考えている。

**佐藤** 各事業における事業評価をどのように行っているか。

**町長** 上期、下期の各課との打ち合わせや当初予算査定時の執行状況やその成果についての説明を受け、必要性、有効性、効率性について評価し予算計上している。

# 一般質問

## 人口減少対策は

### 町長 歯止めをかける事は厳しい



齋藤 晋  
(21期会)



多数参加したしどけ講習会

#### 町の人口が半分に

**齋藤** 平成52年には、秋田県の人口が70万人を切り、五城町の人口が5,000人を

切るとの予想が出ている。収・交付税なども減少する。町独自の人口推計を実施しているのか。

**町長** 町独自の10年間の人口推計

- ・0歳から14歳まで 829人↓417人
- ・15歳から64歳まで 5,818人↓4,213人
- ・65歳以上 3,907人↓3,901人

**齋藤** 人口減少により農業・林業・工業・商業はどうなる。

**町長** 人口減少により、労働力が不足し経済規模の縮小や担い手不足により地域活力の低下になる。国全体が人口減少の局面を迎える中、

町だけ歯止めをかけることは厳しい状況である。国の取り組みを注視しながら今後の発展計画における施策を検討する。

**齋藤** 人口減少により労働力人口も減少する。町の対応策は有るのか。

町には多くの知識を持った高齢者・多くの技を持った高齢者がたくさんいる。この人たちを名人として登録しボランティアでなく有償で働いてもらう制度を考えるべきだ。五城



しどけを特産に

目は山菜が豊富である、山菜に関して知識を持った高齢者は多い。しどけ・ぜんまいなど高額で取引できる山菜の栽培を町が主導で実施すべきだと思うが。

**町長** 労働人口は、昭和60年で7,550人、平成22年で5,155人、25年間で約30パーセントの減少となった。今後ますます減少してゆく。対処策として若者の定住促進のため、安心して子供を産み育てる環境整備・生活環境の整備・雇用の場就業機会の拡大を図ることも重要である。また、労働力不足を補うために高齢者による町の地域資源を活用したG・Bビジネス(しゅっちゃん・ぱっちゃんビジネス)なども取り組みのひとつと考える。

#### 町内会長を除雪監視員に

**齋藤** 除雪後の点検はしていないのだが、より良い除雪をするためには除雪後の監視員が必要である。監視員には町内会長が最適と思うが町長はどう考えるか。

**町長** 除雪作業に対する考えがそれぞれ違うこと・除雪業務は生産的な作業でなく完成形が無い・時間経過とともに変化してゆくなど、現場検査にはなじまない。委託を受ける町内と受けない町内では不公平が生じる。苦情・要望をすべて実施すると経費の増加が懸念される。町民の受忍限度を超えないよう業者指導をするが、住民のすべての要望に応えることは出来ないことを理解いただきたい。

その他に

- 除雪の準備はいつから。
- 除雪会議はいつ実施。
- 町内会長を交えた除雪会議を。
- 町おこしグループ・個人に対し町で支援を。
- 町おこしグループ・個人のイベントの宣伝に広報を利用できないか。質問しました。

# 一般質問

## 地域包括ケアシステムの構築へむけて

### 町長 『医療・介護・福祉の連携を考える会』 を開催



畑澤 洋子  
(公明党)

**畑澤** 地域包括ケアシステムの構築には、医療との連携は

#### 認知症の早期発見に『物忘れ相談プログラム』の活用を

**畑澤** 認知症は早期に治療を開始することで、改善もしくは進行を抑えることができる。集団検診や集会場などで、検査できるタッチパネル式「物忘れ相談プログラム」を活用してはどうか。

**町長** 認知症の早期発見に取りくむ必要がある。先進的な事例に学び効果的対策を講じる。



物忘れ相談プログラムのパネル

がかせない。核となる病院が必要で、南秋には湖東厚生病院がある。町村の枠をこえて広域で話し合う必要がある。医師会との連携はどのようにしているか。

**町長** 「湖東厚生病院と連携した在宅医療体制の整備」に資するため、湖東厚生病院、男鹿潟上南秋医師会、多職種合同会議の事業所を対象に「医療・介護・福祉の連携を考える会」を8月24日開催する。

#### このままでは町がなくなる「出産祝金」の増額を

**畑澤** 2040年、当町の人口は4,991人（国立社会保障人口問題研究所）と推計されている。自治体消滅につながる。県内出生率第1位の

鹿角市では「地域の宝・出産祝金」を、第2子10万円、第3子20万円を贈呈している。施策が定着し第3子まで出産する人が増えている。当町でも増額できないか。

**町長** これまで実施している支援策を含め、総合的に判断したい。

#### 吸血生物「ヤマビル」対策

**畑澤** 当町にヤマビルが生息していると聞いてから久しくなる。山菜の宝庫「五城目町」のイメージダウンだ。生息範囲・拡大を防ぐ対策・利活用はどうなっているか。

**町長** 馬場目地区と富津内地区で生息が確認されている。杉沢地区で秋田大学が試験研究した駆除剤の効果が確認されており、新駆除剤として商品化されている。県で実施している生息調査の結果を、ホームページで公表し、被害防止の意識向上を図っていく。

#### 災害時の斜面防護工事のあり方「フォレストベンチ工法」

**畑澤** 今後の気象災害は、人類が発明したいかなる兵器よりも最大の恐怖になる。人工材料を使わず地球にある力を借りて、自然の猛威を乗り越える工法がある。「全天候フォレストベンチ工法」という。この工法の考案者は東京大学の栗原光二博士である。町長はどのように考えるか。

**町長** 施工後の維持管理費、費用対効果を含め、県の指導を仰ぎながら積極的に取り入れていきたい。

# 一般質問

## 消防団の充実強化を

### 町長 団員の処遇改善に努める



石川 交三  
(日本共産党)



我らは守る 五城目郷士

**石川** 東日本大震災での消防団員の死者・行方不明者は253人にのぼる。消防団員の果たす役割が見直され、団の充実強化に取り組む市町村が増えている。定員は条例で230名だが、実数はどうか。  
**町長** 平成26年4月1日現在で、187名である。人口減少や高齢化など厳しい状況にあり、実情に応じた定数改正や班編成の改変も検討する。

**石川** 消防庁通知では「適切な報酬及び費用弁償の支給」が示されている。報酬の交付税単価は団員一人当たりが年間3万6,500円。出勤手当額は7,000円だ。条例では団員報酬額は1万6,000円であり、乖離がある。条例改正し引き上げるべきだ。

**町長** 県内自治体では平均的な金額だが、交付税単価と比較すると下回っているのが現実だ。活動に見合う報酬や手当て支給は、団員の加入促進の面からも必要と考える。財政状況や他市町村の実態も勘案しながら処遇改善に努めていく。

### 矢田津世子文学記念室の管理運営の考え方を問う

**石川** 川端康成からの手紙など、歴史的にも貴重なものがあるが案内・説明する人がいない。作品の配置や保管なども工夫が必要ではないか。

**町長** 平成7年に五城館に開設以来、多くの文学愛好者や研究者が訪れている。常時の職員配置はないが、事前に連絡をいただければ対応している。今後、文学に関心のある方々に呼びかけ、解説や資料



矢田津世子文学記念室

料展示に関わるボランティアの発掘・育成に取り組む。

**石川** 秋田さきがけの読者文芸欄の川柳・俳句・短歌の選者は、わが町の方や出身者である。「詩の国秋田」の表現には根拠があり、県民歌の「山水皆これ詩の国秋田」とある。秋大名誉教授の故・石川三佐男氏によれば「江戸期の秋田人士による漢詩文は約1万編あり、天下の水準を遙かに傑出した作品が少なくない」と述べている。知事も「秋田の美しい原風景が俳句や短歌などの短い言葉に載って世界に伝わり、交流や絆が育つことを願う」と語っている。

ジャンルの違いを超えた文化交流・シンポジウムの開催を提案したいがどうか。

**町長** わが町は古より多くの文人を輩出している。先覚者の遺志は今に引き継がれ、川柳クラブや俳句会、短歌会の皆さんが熱心に活動している。連綿と受け継がれてきたこれらの風土は貴重な財産であり、関係団体の連携を図り、検討していく。

### 臨時的任用職員の待遇改善を

**石川** アルバイト・パートも含めて時給の引き上げ・交通費支給・各種休暇などの改善を求めたい。交通費支給を実施している他市町村の例もある。他で出来て、わが町で出来ないということはない。

**町長** 賃金は平成23年度から引き上げており、年次休暇も改善に努めてきた。交通費支給などについては、十分に試算のうえ、改善努力したい。

その他に  
○教育委員会制度のあるべき姿を問う。  
○町の表彰制度について。質問しました。

# 請願 陳情

## 陳情

### 採 択

◆少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2015年度政府予算に係る意見書採択に関する意見書

## 意見書送付

五城目町議会が議決した意見書を各関係機関に提出しました。



豊かな教育環境を

秋田県教職員組合  
執行委員長 山縣 稔  
秋田県教職員組合男鹿南秋支部  
支部長 石井 孝雄

### 提案理由

ゆたかな教育環境を整備するため、計画的な教職員定数改善と、30人以下学級を推進すること、教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に復元することを求める。

### 提出先

内閣総理大臣 安倍 晋三  
内閣官房長官 菅 義偉  
文部科学大臣 下村 博文  
財務大臣 麻生 太郎  
総務大臣 新藤 義孝

# 議員研修報告



パブリックマネージャーに認定

5月19日からの「行政経営とその改革の手法」では全国の先進的な自治体の行政改革や取組を勉強する機会に恵まれた。内容としては地方自治体の経営改革の背景として昨今の地域をめぐる情勢、求められる地域の自立、地域マネジメントの必要性など「管理から経営する時代」に変わり首長を始め、経営マインドを持った公務員が求められるとあり、時代とともに臨機応変な判断や意思決定が求められる事々を学んだ。また参加者は全国の自治体の行政改革を担う若手職員が中心であり活発な意見交換が出来た。

議員の学舎として知られる全国市町村国際文化研修所では、長期的な視点から地域を担う人材育成を目的として、パブリックマネージャー認定コースを設置し、自治体経営に必要な能力

を伸ばすため指定された単位を取得した者を認定しており、今回の研修をもって、東日本で初めてパブリックマネージャーとして認定された。

- 研修名 第1回市町村議会議員特別セミナー
- 研修先 滋賀県大津市・全国市町村国際文化研修所
- 研修期間 4月10日～11日
- 参加議員 佐藤慶彦
- 研修名 市町村議会議員研修
- 研修先 地方議員のための政策法務
- 研修期間 4月23日～25日
- 参加議員 佐藤慶彦
- 研修名 基礎から学ぶ多文化共生と自治体、協会、住民の役割
- 研修先 滋賀県大津市・全国市町村国際文化研修所
- 研修期間 5月8日～9日
- 参加議員 佐藤慶彦
- 研修名 行政経営とその改革の手法
- 研修先 滋賀県大津市・全国市町村国際文化研修所
- 研修期間 5月19日～23日
- 参加議員 佐藤慶彦

# 議会議員全員協議会

平成26年5月20日

- ### 協議案件
- (1) し尿処理施設建設計画について

- ### 報告案件
- (1) 五城目町消防庁舎建設について
  - (2) 消防救急デジタル無線整備事業について
  - (3) 大川小学校の統合について

## 五城目町 「森林・林業・林産業 活性化推進議員連盟」 通常総会開催

林業の町として議員全員で林産業の振興と活性化を図ることを目的とした「林活議員連盟」の26年度総会を6月定例会終了後、開催した。

議会活動などを通じて地域の森林・林業・林産業が更に充実強化されるよう国、県、町に積極的に要請することを確認した。

- |      |        |
|------|--------|
| 会長   | 工藤 卓美  |
| 副会長  | 澤田 石亀雄 |
| 副会長  | 館岡 隆   |
| 事務局長 | 石井 光雅  |
| 監事   | 畑澤 洋子  |
| 監事   | 佐藤 重信  |
| 顧問   | 佐藤 成孝  |



あれ



# なんとになったべが!

平成25年6月定例会一般質問より

問

間口除雪の利用条件を緩和しよう。

**答** 親族がそばにいる場合、対象にならなかつたが見直す。ガスタンクや油タンク、トイレ付近も作業範囲とする。

**現在** 平成25年度からは親族の要件を廃止し、作業範囲も拡大・実施している。

問

子宮頸がん検診にHPV（ヒトパピローマウイルス）検査の併用を。

**答** 早期発見のためHPV併用検診実施に向け、費用と個人負担を検討する。

**現在** 実施する場合は、HPV検診に伴う費用が6千円から8千円くらいとなることから、応分の個人負担を伴う。医療機関と協議しながら検討したい。

問

図書室は利用しやすい場所に移動、整備すべきだ。

**答** 現在の図書室のスペースは十分とはいえず、これまで検討してきた。住民に多様な学習機会を提供するため、さらに検討したい。

**現在** 書架の更新や自主的な学習を支援するための図書選定、効果的な配置、親子が座って読み聞かせできるスペースを設置し、利用者カードを発行して利便性を図っている。今後も利用者のニーズ把握に努め、在り方を検討していく。



手狭な図書室

問

高齢者の生活支援施設が必要だ。

**答** 新規建設は厳しいが、老人施設と協議し検討する。

**現在** 町の空き家の活用対策を考慮して検討したい。

問

消防庁舎の建設はいつか。

**答** 平成26年度に土地造成、建設工事、外溝工事発注を行い、平成27年度の秋には新消防庁舎で業務できるように進める。

**現在** 平成26年度で土地造成、27年度までで庁舎、外溝工事を行い、27年秋には新消防庁舎で業務できるよう、進めている。

(石川 交三)

# 励ましのひと

湯の越温泉グループホーム  
主任介護員 草皆 幹子さん  
(帝釈寺)



## ● 仕事はどうですか。

**草皆** 利用者の皆様が穏やかに生活し、ここが自分の自宅と思ってもらえるように、毎日心がけています。

## ● 楽しい事は。

**草皆** 皆様の若い頃のお話や失敗談を聞いて一緒に笑っている、そんななげない毎日が楽しいです。

## ● 大変な事は。

**草皆** 体調が悪い時の変化を早く気づいてあげる事が大事だと、経験してみてわかりました。

## ● 心に残るエピソードは。

**草皆** 全員で大型バスに乗り紅葉狩りに行った時、無口な人が笑顔で「きれいだ」と話された事。外に出て気分転換する事の重要性がよくわかりました。

## ● 町政や議会へのご意見は。

**草皆** 高齢者の皆様が住み慣れた地域で、安心してサービスが受けられる環境を整えてほしい。

(取材：畑澤洋子)

● 介護の仕事をして何年になりますか。  
**草皆** 湯の越温泉グループホームが開設した当初より仕事をしていますので、11年目になります。

# がんばってます



五小5年  
女子ミニバススポ少  
千田 菜月さん  
(紀久栄町)

1つ目は、ディフェンスです。相手に抜かれないように、コースに入るようにしています。なるべくファウルをしないように気をつけたいです。

2つ目は、スリーポイントシュートです。体が曲がらないように、手をきれいに伸ばして打っています。

3つ目は、一対一です。ステップをたくさん使ってスピードで抜く練習をしています。強気でどんどん勝負していきたいです。

チーム全体でがんばることとは、声をかけ合っていくことです。パスミスを防いだり、お互いに励まし合ったりして、チームを盛り上げていきたいです。

11月の大会では、全県出場できるようにがんばっていききたいと思います。

(取材：佐藤慶彦)



## 編集

## 後記



「そこで」「ひでこ」と呼ばれる山菜はユリ科で「しおで」が本名だそう。山のアスパラとも呼ばれ朝市にもいくらかは出品されている。

まだ雪がある時期には「しどけ」「たらのめ」「ごごみ」などの栽培物が高値で取り引きされる。良い物、おいしい物であれば売れる時代だ。

わが町は農林業が基幹産業である。取り組む価値は十分にあるのではないだろうか。

議会も折り返し地点となったが、広報メンバーは変わらない。皆様が手にとって読みたくなる議会広報を目指して頑張りたい。

広報編集委員長 齋藤 晋記